



<http://www.orsc.co.jp>



Oriental Shiraishi Corporation

本 社
〒135-0061 東京都江東区豊洲五丁目6番52号 (NBF 豊洲キャナルフロント)
TEL: 03-6220-0630

東北支店
〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2-16-10 (メットライフ仙台本町ビル)
TEL: 022-222-4691

東京支店
〒135-0061 東京都江東区豊洲五丁目6番52号 (NBF 豊洲キャナルフロント)
TEL: 03-6220-0650

大阪支店
〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-9-1 (肥後橋センタービル)
TEL: 06-6446-0243

福岡支店
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神4-2-31 (第2サンビル)
TEL: 092-761-6931

技術研究所
〒321-4367 栃木県真岡市鬼怒ヶ丘5
TEL: 0285-83-7921

関東工場
〒321-4367 栃木県真岡市鬼怒ヶ丘5
TEL: 0285-83-3655

滋賀工場
〒522-0243 滋賀県犬上郡甲良町大字小川原1080
TEL: 0749-28-0127

福岡工場
〒830-1226 福岡県三井郡大刀洗町山隈150
TEL: 0942-77-2489



尽きることのない 『匠たちの夢』

～ Infinite Dreams of Engineers ～

経営理念

人と技術を活かし、常に社会から必要とされる集団を目指す。

行動規範

私達の“意義”と“責任”と“可能性”
～私達が、私達であるために～

1. 私達は、「顧客第一の」私達であるために、常に高品質、高機能の建設物を提供し、カスタマーやユーザーのニーズに応える集団であり続けます。
2. 私達は、「競争力豊かな」私達であるために、技術の開発と革新に努めて、個人の能力や組織力を高めるとともに、時代や社会の変化に対して、スピーディーかつ的確に対応できる集団であり続けます。
3. 私達は、「社会から必要とされる」私達であるために、コンプライアンスを徹底し、地球環境に配慮しながら良質の社会資本を構築・整備することにより、社会に貢献する集団であり続けます。
4. 私達は、「安定して発展する」私達であるために、堅実な経営、信用の回復、情報の開示に努め、活力あふれる集団であり続けます。
5. 私達は、「信頼しあえる」私達であるために、快適で働きやすい職場を形成し、お互いの人格を尊重して、能力やモチベーションを高めあい、所属する誇りと《愛着ある帰属感》に満ちた集団であり続けます。

大いなる自然と大地、未来を見つめる都市を舞台に橋梁、高速道路、鉄道やライフライン施設など多種多様な社会資本を構築してきました。人々の暮らしに潤いをもたらす、安全を約束する社会資本の建設には、当社の施工実績と研究開発によって培われブラッシュアップされた技術の数々が活用されています。これからも、都市環境の整備や新たなインフラ構築のほか、既存のインフラの補修・補強、巨大地震やゲリラ豪雨などへの災害対策にも尽力し、「人と技術を活かし、常に社会から必要とされる集団を目指す」という経営理念のもと、着実な発展を続けてまいります。



代表取締役社長
大野 達也

Corporate Profile 企業情報

- 社 名 オリエンタル白石株式会社 (Oriental Shiraishi Corporation)
- 本店所在地 東京都江東区豊洲五丁目 6 番 52 号
- 創 業 1952 年 (昭和 27 年) 10 月 21 日
- 資本金 5 億円
- 売上高 433 億円 (2017 年 3 月期)
- 従業員 669 名 (2017 年 3 月 31 日)
- 事業内容 ●プレストレストコンクリートの建設工事および製造販売
●ニューマチックケーソンの建設工事
●補修補強の建設工事
●耐震補強建築工事の設計・施工
●建設資材の販売
●太陽光による発電事業及びその管理・運営並びに電気の供給、販売
- 登録許可 建設業許可：国土交通大臣 (特-27) 第 4018 号
建設コンサルタント登録：国土交通大臣 (建 26) 第 3761 号
一級建築士事務所登録：東京都知事第 1483 号
- ISO9001 認証 全事業所 2006 年取得
登録番号 RQ0169
登録範囲
・プレストレス工法による橋梁、その他の土木構造物の設計及び施工 (維持保全を含む)
・建築物の施工 (維持保全を含む) (“7.3 設計・開発”を除く)
・プレキャストコンクリート製品の設計、製造及び施工
・建設分野の研究開発業務
- ISO14001 認証 全事業所 2003 年取得
登録番号 RE0314
登録範囲
オリエンタル白石株式会社及びその管理下にある作業所群における「プレストレス工法による橋梁、その他の土木構造物の設計及び施工 (維持保全を含む)」、「建築物の施工 (維持保全を含む)」、「プレキャストコンクリート製品の設計、製造及び施工」、「建設分野の研究開発業務」に係る全ての活動

OSJBホールディングスグループの一員です。
2014年4月、純粋持株会社としてOSJBホールディングス株式会社が誕生しました。



商 号	OSJB ホールディングス株式会社
資 本 金	10 億円
売上高 (連結)	513 億円 (2017 年 3 月期)
従業員数 (連結)	848 名 (2017 年 3 月 31 日現在)
事 業 内 容	グループ企業の経営計画ならびに管理
所 在 地	東京都江東区豊洲五丁目 6 番 52 号 (N B F 豊洲キャナルフロント)
株 式	東証 市場第一部

Technology

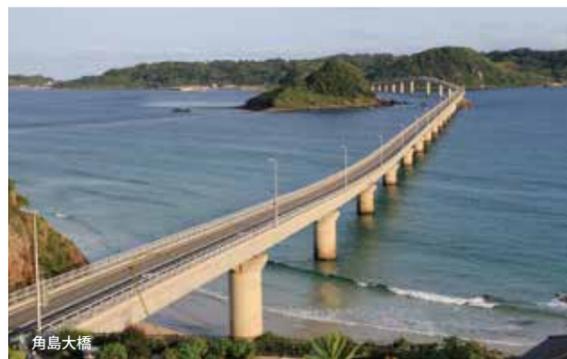
独自工法と特化技術で社会基盤を創造します。

プレストレストコンクリート工法

プレストレストコンクリートとは、プレ=あらかじめ、ストレスト=圧力を入れた、コンクリートのことです。鉄筋の5~6倍の強度がある鋼材を引っ張って緊張した後に、コンクリートと固定。鋼材が元に戻ろうとする力を使ってコンクリートを圧縮します。こうして造られたプレストレストコンクリートは、とても強度が高く耐久性に富むことから、さまざまな構造物に活用でき、また地震にも強いので、特に安全性が重視される橋梁や鉄道、上下水道の貯水槽、公共施設などに積極的に取り入れられています。当社は国内屈指のリーディングカンパニーとして、橋梁をはじめとするプレストレストコンクリートの施工技術をけん引し続けています。



木曾川橋



角島大橋

ニューマチックケーソン工法

ニューマチックケーソン工法のニューマチックは「空気の」、ケーソンは「函(はこ)」の意味で、潜函工法ともいわれます。地上でコンクリート構造物「函」を構築し、その下部に設けた作業室で掘削し、地中深くに構造物を沈設させる工法です。地下水の浸入を防ぐため、作業室には圧縮空気を送ります。この工法は作業室内の空間で地盤を確認しながら掘削・排土して「函」を沈めていくことで、あらゆる地盤に対応可能です。長大橋梁の基礎やポンプ場など、数多くの地下構造物に活用されています。当社は本工法を日本に導入、発展させてきたパイオニアであり、世界最高の技術と最多の施工実績を誇ります。



レインボーブリッジ



東尾久ポンプ場

PC建築

プレストレストコンクリートは、ひび割れやたわみを抑制し、かつ梁せいを抑えたスレンダーなロングスパン梁を可能にすることにより、無柱大空間が求められる大学の大教室、体育館、企業の執務室など様々な建物に利用されています。また、工場で製作した柱や梁などのプレキャスト部材をプレストレスにより一体化させ、建物を構築するプレキャストプレストレストコンクリートを用いると、現場における工期短縮や、現場廃棄物の削減、騒音の低減など環境負荷の保全にも有効であり、造形美に優れるとともに高品質で耐久性の高い建築物を造ることができます。当社はPC建築のパイオニアとして、これからも利用者が安全で快適に過ごせる建築物を提供していきます。



スカイホール豊田



ケーズデンキスタジアム水戸

補修・補強

1960年代以降急速に整備が進んだ社会基盤も、今や約半世紀の時を経て老朽化が問題視され、インフラの更新や維持管理は、まさに喫緊の課題として対応を迫られています。当社は、来るべき「社会基盤のリニューアル時代」を予測し、社会のニーズに応えるべくさまざまな補修・補強、メンテナンス技術を開発しています。当社は耐震化などの国土強じん化やインフラ老朽化対策に高い技術と独自の工法で他に代え難い存在感を発揮し、インフラ整備に貢献していきます。



上長房橋床版取替



浦戸大橋下部工補強

■技術研究所

シンクタンクとして機能する技術研究所。コンクリート構造物の未来を担うスペシャリストがさまざまな研究開発をしています。コンクリートに関する材料および構造をはじめ、耐久性・メンテナンス・環境負荷低減に至る幅広い技術について試験・解析・研究開発を行っています。さらに、社内外への技術協力や支援、技術系社員の教育に加え、開発に関する広報活動もおこなっています。

研究開発



材料・施工研究設備



構造研究設備



■機材開発

担い手不足や熟練技術者が減少していく中、大深度や高架・高層など工事の難易度は上がっています。現在の社会ニーズである「省力化・効率化・安全性の確保・生産性の向上」に応えるためには、建設用機械の先進的な技術を利用し、建設工事におけるロボット化やICT化に加え、操作性の改善を実現することが急務となっています。建設機械のスペシャリストが新発想の建設機械を開発することで、建設工事における新たな価値を生み続けています。

橋梁架設機



ニューマチックケーソン掘削設備



Awards

主な受賞作品(2000年～)

年度	工事名	企業者	賞名
2000	士狩大橋	北海道開発局	田中賞
2001	木曾川橋	日本道路公団	田中賞、PC 技術協会賞
2001	森のわくわく橋	福島県	田中賞、PC 技術協会賞
2003	芝川高架橋	日本道路公団	田中賞、PC 技術協会賞、 2006 年度土木学会デザイン賞
2003	のぞみ橋	中部地方整備局	田中賞、PC 技術協会賞
2004	矢作川橋【豊田アローズブリッジ】	日本道路公団	田中賞、PC 技術協会賞、 日本コンクリート工学協会賞
2004	鎌山谷橋	徳島県那賀町(旧相生町)	PC 技術協会賞(技術開発部門)
2004	安城高架橋	日本道路公団	PC 技術協会賞(技術開発部門)
2004	つくばエクスプレス(鉄道)PCU型桁式高架橋	(独)鉄道・運輸機構	PC 技術協会賞(作品部門)
2005	大平高架橋	NEXCO 中日本	PC 技術協会賞(作品部門)
2005	志津見大橋	中国地方整備局	PC 技術協会賞(作品部門)、 2007 年度土木学会デザイン賞
2005	天竜川橋	NEXCO 中日本	PC 技術協会賞(作品部門)
2005	高速6号清州線「新名西橋工区」	名古屋高速道路公社	PC 技術協会賞(作品部門)
2005	芋川橋災害復旧工事	NEXCO 東日本	PC 技術協会賞(施工・技術部門)
2005	子野川橋床版改良工事	NEXCO 中日本	PC 技術協会賞(施工・技術部門)
2007	徳之山八徳橋	(独)水資源機構	PC 技術協会賞(作品部門)
2008	億首川橋リニューアル	NEXCO 西日本	PC 技術協会賞(作品部門)、 日本コンクリート工学協会賞
2009	九州新幹線 大野川橋りょう	(独)鉄道・運輸機構	PC 技術協会賞(作品部門)
2009	パームジュメイラ・モノレール高架橋	アラブ首長国連邦ドバイ首長国	PC 技術協会賞(作品部門)
2010	交野高架橋	NEXCO 西日本	PC 技術協会賞(施工・技術部門)
2011	向佐野橋リニューアル	NEXCO 西日本	PC 技術協会賞(施工・技術部門)
2012	さがみ縦貫相模原 ICF ランプ改良工事	関東地方整備局	PC 工学会賞(施工・技術部門)
2012	第二音戸大橋	広島県	土木学会田中賞
2014	J R 総武線市川・本八幡間外環こ道橋新設工事	JR 東日本 NEXCO 東日本	土木学会技術賞 (我が国初の既設RC高架橋を長スパン化 して受替える両体構築技術)
2014	伊良部大橋	沖縄県	土木学会田中賞
2015	上長房橋補強工事	NEXCO 中日本	PC 工学会賞(施工・技術部門)



志津見大橋



芝川高架橋

History

沿革

オリエンタル建設の歩み

- 1952年 オリエンタルコンクリート株式会社設立
P C マクラギ製造開始
- 1953年 P C シェッド第1号施工
P C 鉄道橋第1号(光弦橋)施工
ポステンブロック道路橋第1号(新船橋)施工
- 1955年 ケーブルエレクション工法第1号(菊池川橋)施工
- 1956年 P C 建築第1号(南淡町庁舎)施工
- 1958年 国内初のP C タンク(子安調整水槽)施工
P C 舗装第1号(大阪市道路)施工
- 1960年 日本初のP C プレハブ重層建築による本社ビル完成
- 1961年 国内初モノレール軌道桁(奈良ドリームランド)施工
- 1968年 大阪万国博覧会モノレール軌道桁製作
- 1973年 国内初のP C トラス橋(岩鼻架道橋)施工
- 1975年 ドライコンタクト工法第1号(塚原橋)施工
- 1980年 P C R 工法第1号(大野田B V)施工
- 1983年 国内初の卵形消化槽(横浜市北部第二処理場)施工
- 1984年 国内初のパイプレストレッシング工法(川端橋)施工
- 1988年 国内初のロアリング工法によるコンクリートアーチ橋
(内の倉橋)施工
- 1990年 オリエンタル建設株式会社に社名変更
- 1995年 東京証券取引所第二部に株式上場
- 1996年 東京証券取引所第一部に株式上場
- 2002年 波形鋼板ウェブP C 橋・前谷橋完成
- 2003年 I S O 1 4 0 0 1 会社認証取得
- 2004年 台湾新幹線P C 軌道スラブ納入

白石の歩み

- 1890年 白石直治(第5代土木学会会長、白石多士良実父)、関西鉄道建設工事
監督・同社長に就任。神戸・和田岬浮きドック建設を担当。
- 1919年 我が国発の鉄筋コンクリート建築物である東京倉庫を設計。
- 1924年 白石多士良が太田圓三、田中豊、平山復二郎らと共に帝都復興事業
隅田川架橋工事にニューマチック工法を採用。永代橋工事着手
- 1933年 「白石基礎工業合資会社」を設立
東横百貨店基礎工事施工(建築地下初採用)
- 1934年 東京日比谷第一生命本社ビル基礎工事施工(建築基礎本格採用)
- 1935年 大阪地下鉄御堂筋線(大町町)14基連続函体施工(洞道初採用)
- 1938年 「白石基礎工事株式会社」設立
- 1952年 火力発電所建設全盛期、新東京・千葉等の発電所基礎工事施工
- 1965年 大阪市毛馬町導水管布設工事施工(当社初のシールド工法)
- 1968年 大阪地下鉄堂島川沈埋トンネル施工(我が国初の沈埋函工法)
- 1974年 日本鋼管扇島製鉄所高炉基礎施工(深さ55mは当時最深)
- 1981年 遠隔操作による函内掘削開始(名港トリトン)
- 1983年 「白石基礎工事株式会社」から「株式会社白石」に社名変更
- 1990年 世界最大のケーソン基礎の施工(レインボーブリッジ)
- 1993年 ヘリウム混合空気呼吸システムを初採用
- 2000年 大阪市柴島立坑工事(作業気圧0.55MPa)
ヘリウム混合空気呼吸システムによる施工
- 2001年 Kui Taishin-SSP工法の施工(横浜市鷗橋改良工事)、
PCカール工法、STEP工法等開発。補修補強事業に展開
- 2004年 小断面無人化のスリムケーソン工法の開発・施工
- 2006年 ケーソン工法設計施工技術高度化、「SIニューマ」の開発

「オリエンタル建設株式会社」と「株式会社白石」は、主たる事業のプレストレストコンクリート橋梁上部工と、ニューマチックケーソン工法下部等の上下部一式工事発注対応の推進や、両社の技術力と施工力による新開発事業を図るべく、新しい大きな夢を抱き合併しました。設計・施工体制の強化と効率化や技術・施工力を高め、さらに社会に信頼される会社を目指します。

オリエンタル白石の歩み

- 2007年10月 「オリエンタル建設」と「白石」が合併し、「オリエンタル白石」が誕生
- 2008年11月 東京地方裁判所に会社更生法の適用を申請
- 2010年5月 東京都江東区豊洲に本社を移転
- 2011年10月 会社更生手続終結
- 2011年12月 「日本橋梁」と経営統合
- 2012年6月 「ピアーフレ工法(曲げ補強仕様)」を開発(NETIS登録番号:KT-120096-A)
- 2013年7月 国土交通省近畿地整局長より「平成25年度工事成績優秀企業」として認定
- 2013年7月 「水路トンネル耐震補強工法」を開発
- 2013年7月 プレキャスト桁の新しい連結工法「SCBR工法」を開発
- 2013年8月 「STEP工法(河川環境に配慮した仮締切工法)」の玉石混じり砂地盤への適用を開始
- 2014年1月 狭隘な鉄道高架橋下で橋脚の耐震補強が可能な「RSPリフトアップ工法」を開発
- 2014年3月 「P C 構造物の残存プレストレス推定手法」を確立
- 2014年4月 当社グループが純粋持株会社体制へ移行し、「OSJBホールディングス」の子会社となる
- 2014年7月 国土交通省近畿地整局長より「平成26年度工事成績優秀企業」として認定
- 2015年4月 太陽光発電事業開始